

駒ヶ根市文化財

名称	光前寺の釈迦如来十六羅漢図(全三幅)
種別	美術工芸品(絵画)
指定	市・有形文化財(平成28・1・20)
所在地	赤穂29
所有者	光前寺
説明	<p>絹本着色 13～14世紀</p> <p>各寸法:中尊 縦86.5cm、横41.6cm 左 縦86.5cm、41.3cm 右 縦86.3cm、横41.3cm</p> <p>中尊は釈迦如来、両脇は十六羅漢である。釈迦如来は腹前で禪定の印を結び獅子をあしらう蓮台上にて結跏趺坐(けっかふざ)する。十六羅漢は左右の軸にそれぞれ八尊の計十六尊を描く。</p> <p>羅漢は阿羅漢の略で、いっさい煩惱を断って悟りの境地に達した聖人をいう。本図は、墨線のみで構成され、礼拝用の仏画というより水墨仏画の趣をなす。宋元画の特徴のきわめて濃厚な画風である。</p> <p>長野県内における宋元画としては、近いところでは大桑村・定勝寺に十四世紀の作とされる十八羅漢図と十四世紀の作である釈迦三尊像がある。本図はこれに比肩もしくはそれ以上の出来栄を示すものであり、製作年代としては十三～十四世紀、南宋から元代に活躍した画家の手によるものと思われる。</p>



釈迦如来十六羅漢図